和教時報

2020年７月15日（水）発行　第1963号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

コロナ禍における学校、子どもたちは

混乱の中で自然と「本来必要なもの」が浮かび上がっている

教育計画、感染症・熱中症対策など、多くの課題の中での学校再開です。

文科省は、最終学年以外は学習内容を「次学年又は次々学年に移して教育課程を編成する」と通知しましたが、「指導を終えるよう努めても難しい場合」と、「特例」を強調しました。

県教委は文科省の通知を地教委へ流すだけで、教育課程の柔軟対応について特に発信せず、それどころか「高校入試の範囲を早く公表して」という受験生や保護者、教職員の声に未だ応えず、県学力テストの延期実施を示すなど、従来の競争と管理の教育にしがみついています。学校の苦悩の背景に、こうした文科省・県教委の姿勢があります。

国・県が補正予算を組み、中学校も含め六学級以上の学校にSSSが配置されます。加配教員、学習指導員とともに、早期の任用が求められます。学校に「学習保障等に係る支援経費」が措置されました。地教委に対し、感染症や熱中症対策のための必要物品を求めましょう。

五月の初任研が動画研修となり課題が出されましたが、授業再開と時期が重なり、また時間がとれず、初任者に大きな負担がかかりました。和教組は県教委に申入れ、提出期限延長を確認しましたが、今後も配慮が必要です。

混乱の中で、自然と「本来必要なもの」が浮かび上がってきています。やはり少人数学級や教職員の増員が必要です。教育課程編成権をもつ学校に自由が必要です。力を合わせて新しい和歌山の教育をつくるときです。

学校を再開して思うこと

こんな時こそ…しっかり考えなきゃ

紀北支援分会　永金麻以子

二〇二〇年二月二七日（木）の夜、突然「三月二日から臨時休業になるので、明日卒業式を行う」と連絡がありました。夕方、安倍総理が「全国の小、中、高校、特別支援学校に臨時休校を要請する」と表明したからです。卒業式をするって、どうするの？式次第は？誰が式に出るの？何もわからないままでした。

それから四ヶ月。全てがトップダウン。臨時休業の延長も夏休みの短縮も、そして分散登校の仕方もそれを変更する時も一斉登校を開始する時も。県からのトップダウンが、当たり前になってしまっています。

最初は新型コロナウイルス感染症に対して、どう対応すればよいのかわからず、上の指示に従うしかないと思っていました。しかし分散登校が開始され、実際、子どもたちに対応するのは我々教職員なのに、教職員の意見も聞かずに色々決めてくることに腹立たしさを覚えました。スクールバスや教室の密の問題、肢体不自由重複学級の子どもたちの給食の問題等、考えなければならない問題は沢山あるのに、先に一斉登校の日程を決め、保護者に連絡を済ませている。学校はいったい誰が主人公なの？何を一番大事にしないといけないの？こんな時こそしっかり考えなきゃと思います。

学校を再開して思うこと

給食が再開されて

栄養職員部書記長　中田　智子

私が勤務している小学校では、六月一五日から給食がやっと再開されました。新年度の給食は、調理場も学校現場もコロナ対策に奔走し、正解がよくわからないまま手探りで対応しているように感じます。例えば、コロナ対策として品数を減らしていますが、配膳がスムーズにできているか、量は足りているかなど、心配は尽きません。けれど、今はできるだけ給食時間はしゃべらないことになっているので、子どもたちに話かけることも憚られます。廊下からそっと教室を覗くと、子どもたちから一斉に「給食の先生だー」「給食おいしいよー」と話かけられ、思わず指で「静かに」と合図を送ってしまいました。小さい声でありがとうと伝えたけれど、子どもたちに伝わったかどうかはわかりません。

また、全教が実施したアンケートで、「おかわりは当面、禁止」「量の調節は教職員で」「食事中のマスクはどこに置く?」など、全国どこでも同じことに困っていることがわかりました。

このような状況がいつまで続くのか、先行きが見えないため不安です。そんな中、とても心強く感じたのが、栄養職員部のグループラインです。悩みを言えば、みんなの意見が聞けて本当に助かりました。この難局を乗り切るには、仲間のつながりをある意味「密」にして、ひとりで抱え込まず、今後も対応していけたらと思います。

コロナ禍における学校・子どもたちの今

養護教員部常任　角田　弥生

文部科学省は、学校再開に向け、感染拡大防止策として「新しい生活様式」の実践の徹底を学校や保護者に求めました。そのため子どもたちは、自宅を出てから帰るまでマスクを外しません。また、三密を避けるため、休み時間でも友達と自由におしゃべりを楽しむことすらできません。遠足や、プール等の学校行事も中止、給食も掃除も無言で行う等、窮屈な学校生活の中で、子どもたちの笑顔に接することが少なくなっています。

職員は、毎日終業後、教室やトイレ、手すり、電気のスイッチ、遊んだボール等の消毒にあたります。子どもに任せていた掃除を教員が行うので、分担しても三〇分以上かかります。どこまでやれば十分なのかわからず、手探りで感染対策が行われています。本来業務である授業の準備等、残業することとなり、過重労働がますます深刻化しています。「すべて教職員で」というのではなく、人手を増やす手立てを早急に行わなければ現場は回りません。

学校の七夕の短冊には、「マスクのない生活が早く来ますように」、「コロナに負けないで、健康でいれますように」等、明るい未来を願う子どもたちの切実な気持ちが描かれています。

子どもたちの思いが届き、コロナ収束が一日でも早く訪れることを願うばかりです。

小学生と学校の様子

■登校時間を七時五〇分以降にし、玄関で健康チェック表を確認している。体育以外はマスクを着用しているが、外遊びでしんどいときは、離れてマスクを外すのは良いことにしている。給食時はパーテーションをしている。トイレ掃除は教職員が行っている。

■はじめは恐る恐る学校生活が始まりましたが、最近は感染症対策ありの学校生活にも慣れ、子どもからは「マスクしてない方がヘンな感じがするわ」との声も。消毒については、教室は担任、校内は養護と分担して行っていますが、体育の備品など（マットや跳び箱）はどのようにすればいいのかわからず、まだ体育の授業は進められていません。「十分配慮して行うこと」の難しさを感じています。

■消毒液は、使用場所によって濃度が違うので、養護教諭が子どものことをすごく考えてくれているのに、管理職が適当なところが気になります。次亜塩素酸が消毒に適さないとなったときなど、どう対応するか一番考えなければならない管理職が、全然感染症対策のことを考えていないのがとても気になりました。感染症対策では、養護の先生がいろんなところに電話をして一番考えてくれていました。

中学生と学校の様子

■中学一年生が落ち着かない。四月からの学級づくりが丁寧にできていないのか、昼夜逆転等、生活の乱れが残っているのか、朝からあくびをしている生徒もいて、覇気がない。

■体育祭は九月に予定しているが、内容については体育教師に任されて大変そう。例年なら生徒の係りを決めて動き出しているが、コロナの感染対策を考えるなら、競技やパフォーマンスの制限や時間短縮など、見直しが必要なので、学校として指針が必要では。

■修学旅行は東京を避けて西日本で考えている学校が多い。同じ地域の学校で感染症対策として県内で行う学校があると、保護者への説明が難しくなる。理解を得られるようにしなければ、行かせたくないという人も出てくるだろう。

■部活は八月一日二日の郡大会が決定した。練習時間は六時間目が終わってからの一時間半にしている。職員の消毒が終わるのが、四時半頃になり、帰宅が遅くなっている。

今こそ、こんな時だからこそ みんなで学習・交流を！

本格的に暑くなる時期を迎えています。例年ならプール指導があり、一学期のまとめをしている頃です。コロナ禍の下、行事や授業計画の見直し、消毒作業等で、教職員の疲労はピークに達していないでしょうか。

長引く休校後の子ども達の負担を減らすため、「九月入学」や、「教育課程を削減したマニュアル」も話題になりました。

文科省は五月に「次年度以降を見通した教育課程の編成」を「特例的な対応」とする通知、また六月には「重点化にかかる留意事項」で「学習活動の一部をICT等も活用して授業以外の場で行う」との具体例を示しています。しかし、実際にはこれについて議論した学校はほとんどなく、昨年度末の未履修の単元から取り組んだり、授業を昨年の一・三倍位の速さで進んだりと、教科や教師によって進度が違うようです。苦しい中でも教職員の専門性を生かし、創意工夫しながら授業を組み立てている様子が分かります。

しかし新採者は経験の蓄えがなく、戸惑うことも多いでしょう。休校中、ある学校では校内でベテランの先生が声をかけ、学習会を開いたという話が伝わってきましたが、今の学校現場に、この時間があるとは到底思えません。

だからこそ、少人数でも組合に集まり、お互いの実践や工夫を交流し合いませんか。本部ではこの集まりを県下で共有すべく、時報を通して発信していきたいと思います。各支部しゃべり場や教研は速報やホームページでお知らせしていきます。

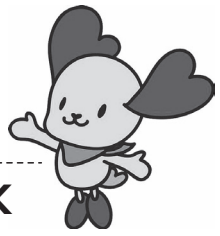
あなたをひとりにしません
トータルサポート

和教共済WKKからのお知らせ

8月8日から8月16日まで
全教共済・和教共済の業務は、休業となります。

■事故等の場合は、
下記へ連絡して下さい。

・**自動車事故等発生時の連絡先**
フリーダイヤル（24時間） 0120-36-7860



全教共済・和教共済WKK

おすすめします。
あなたにピッタリな
教職員のための
全教団体扱い自動車保険
引受保険会社東京海上日動火災保険株式会社

3拍子そろって頼りになります！
安心の充実補償
スリムな保険料
万全の事故対応

全教自動車保険マモルンキャンペーン実施中！！
見積り依頼をしていただきますと、今治タオルミニハンカチをプレゼント！！
ご依頼お待ちしています！！

見積は下記まで
■お申し込み・お問い合せ■
和教共済WKK
〒640-8269 和歌山市小松原通3-20 教育会館1F
TEL 073-436-7860　FAX 073-436-8688